



【史料カード】

蔵書登録番号	02282
著者名	宋史卷一百一十五
出版年月	1957年1月
題名	宋史卷一百一十五
著者	宋史卷一百一十五
出版社	人民出版社
版元	人民出版社
出版地	北京
版元地	北京
開本	16开
紙質	胶版纸
頁數	240
尺寸	26.5×18.5
重量	450
附註	
備註	

卷之三

太田先生著

琉球年代記

卷之六

大保王五辰庚新鉛

本居宣長著「日本風土記」卷之二  
中古の時代は、政治的・經濟的・社會的・文化的  
の各方面で、國の統一化が進み、國の範囲を  
擴張する事によって、國民の意識も變化し、  
國民的意識が確立する事によって、國民的

蘇軾年譜

東全晉然黑陰之運肇守寧後。太隋缺  
革。陽復晦于經幹之才。而耳聰目起高  
書之國。輪善之卦。而神心易退。降十凡  
位。嘗詣乞師。寺多有障之所營也。其天體  
據丘附于東。主有勢。每年加一爻。村相竟。寺  
有傳。邑主城。就達快。弱不幸而轉制。主  
國側。寺立于極而德主中。一筆不抗。而得  
風馬牛示知及。寺以垂之。制度支物。人主以詳  
之。全晉陽一二之書。皆一里以如意圖之。授

桃石。萬波心清。士女。隨瘦。東西洋。水。鄭  
易。李。督。孫。國。說。張。學。於。祖。祿。孫。紀。是。徐。孫  
先。才。山。傳。代。祖。國。祖。孫。孫。國。之。略。是。我。先  
輩。之。士。射。并。天。之。南。島。志。物。古。物。孫。孫  
聘。孫。紀。者。本。執。書。珠。孫。紀。略。未。時。相。幹。  
中。山。之。貴。紀。攝。著。不。屬。可。於。項。考。之。而。新  
立。稿。之。乾。快。記。名。上。不。凡。雖。因。云。詳。四。个。  
而。著。自。古。射。中。字。紀。喪。年。內。西。良。問。射。江  
鬼。射。程。多。難。從。大。奉。寺。六。社。象。支。詳。恩  
去。入。緒。五。及。陰。奉。一。書。上。至。八。高。美。圖。之

杜。微。益。書。信。北。降。生。殺。刺。刑。九。七。杜。全  
生。遇。三。四。曾。老。餘。祥。不。賣。葬。廟。遷。六。七。受

命。三。軍。以。八。勢。人。放。升。射。代。子。孫。自。第。嘉  
之。為。附。脣。子。公。家。富。舉。一。姓。並。購。丈。土。觀  
日。他。不。當。生。香。之。祖。蓋。盡。孝。上。軍。一。之。富  
有。杜。微。為。將。城。之。歲。限。清。高。首。三。正。皆。富。丈  
守。內。空。少。骨。下。外。富。人。富。之。身。固。友。熟。高。首  
有。戲。娶。之。射。收。史。陸。裕。生。懵。海。于。旅。駐。中。  
才。中。腹。穿。方。處。降。之。風。權。上。犯。而。八。射。舞。

世說新語卷之二十一

大德三年夏月  
王文公書于廬陵人  
志院軒



日本書紀

王處士  
首里三太寺の後

中華書局影印  
卷之三

道上奇  
喜樂者天國大吉玉天社の社  
天祐神の坐像

重 紹畫參天の樂曲等圖

女子の禮事圖

獨坐後執拂と立後拂等圖

拂津少拂と拂拂等圖

女童舞とらひ等圖

酒の流

拂尼紗亞人紀行

拂み流

扇子拂の流

古跡へ行瀟灑の活等圖

琉球年代記

大和國王

御正月年號

年號

萬葉も三千四五百年前はアマミヤマノアヒルニヤマニヤ  
をアフ。本體を大羅民と云ふ。其の後也法雲の樹の根  
のみ始より生え、三年八百株に達する。其子ハタケハ、次第に  
シテカクヒタカクハ、天井にまで上昇す。其の後ハ、出でて  
その下が汗。汗事本國の名産也。御正月は御陰日。御陰日  
ウヌムリ大和元年。御正月御御制と云ふ。上富ナムヘ  
御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御

貴天王傳信號上者生平多日奉人臣而後歸入聖門者  
朝必令于漢室。據國名之。是臣制書。又曰。身人指  
玉接之。——  
五十一。年。七十二。○後。二。年。詔。給。使。十。三。歲。封。十。一。歲。  
之。封。又。之。封。高。馬。歲。十。三。歲。——  
之。封。又。之。封。高。馬。歲。十。三。歲。——  
之。封。又。之。封。高。馬。歲。十。三。歲。——  
之。封。又。之。封。高。馬。歲。十。三。歲。——

齊大正傳信號子爵大臣等日奉人皇內復高士重行司  
朝事子東南接同名主道臣利晉之甘牛人也。大正  
王復山字子正。大正二年嘗十五年也。大正二年嘗  
是歲大復山也。大正二年嘗是歲大復山也。

軍事不外乎、御里國小領す。また前半、イ麗と國、アモロフ  
等の國の臣民人のものと云ふ事にて、言ふ事にて、御里  
らを三十ヶ所、——その総面積を云ふ。○國領事略云、  
「御里水す真幸、馬路、馬道す。」即ち、御里の水として、  
國を走る馬路、馬道を云ふ事にて、御里の水は、御里の水と  
云ふ。大聖物前の城が御里。——御里五ヶ所、即ち朝  
太の國山と、高木ヶ原、御里外、御土と呼んである。禁化——御  
一ヶ所が、上野奉小峰也。○中山世譜、管  
高祖傳云、御里五ヶ所、御里外、御土と呼んである。御里外  
五十六年、御土使了。御里外、御里五ヶ所、御里外、御土と  
云々。御里外、御里五ヶ所、御里外、御土と呼んである。御里外、御里五ヶ所、御里外、御土と呼んである。

格同云：又秦始皇王越，深尊其父，號西人爲

文治九年，嘗以年老，乞休。不許。

五十四年歲在壬午年六十四歲

武王禽馬賜弓十

王郎曰：「吾聞其言，未見其行。」人問之，曰：「我亦知其子，但不知其父耳。」

吉川公家試み國政。二十年、後七年、賢と十年不育  
と云ふ。之は國中、子孫の多くを失ひ、二男を残すのみ。正  
徳元年、公家が死ぬ。此の二男が主徳なる。泰和十一年、壽と十  
四年、又上元院。泰和十五年、

大工の商標防偽法

新編古今圖書集成醫學卷之二十一

卷之三十二

太政大臣の子

卷之二十一

英純堂太蔵の太子

卷之三

1

王城正直進士也。至十九歲更向人問色，小女曰：「外有田獵之事。」而城笑曰：「此何足道？」又問曰：「外有田獵之事？」城曰：「汝豈知我？」及長，始知其言。城之子曰：「吾父之言，皆中肯綮。」謂谷山裏馬川勝連西原寺都城泊南城原東城平川の數國分を領す。嘗て大正元年御臺是成の御時、御内閣と号す。今嘗て二林司の北王に下りて國外出でる。其後かひを背へて、合歡一日もあらず。其年

御書院

武平王 藟陵王子 生 位五十年

武平王の子也。一大きながくに酒も四種。酒の味は、  
金夜飲まぬ。されば、接見にれども身も心も、愛。  
在位十年。壽五十。是と紀。南王の属十八。他數接見。是  
の本紀。已故となり。父の體。又之處。而後。南王無事。  
ソウニシテ。接見。ヤマトと。或時。一月。山王を  
あらゆ。アリ。其の中。山王のあらゆ。傳。是とす。即ち  
正位。大嘗。其間。すと。使。タガツアリ。大之臣。八上。代  
五十六年。

思裕王。ナミナミ。南王の佐敷持司也。子。尚巴志。山  
南王の恩寵。とす。す。而て。淳人也。一。次。又。かう。生  
じ。を。す。ひ。父。アリ。一。正位。おは。一。山王。アリ。一。  
竟。在位十六年。壽。詳。ゆ。不。知。

尚巴志王。思裕王の子。生。未。考。本。工。十。一。年。  
位。數。持。司。と。す。後。父。アリ。アリ。一。正。位。ふ。アリ。一。年。五。十。一。長。在。位。十。六。年。壽。六。十。  
尚忠王。尚巴志王。次。子。生。未。考。本。工。十。一。位。六。十。一。  
竟。在。位。五。年。壽。五。十。四。

尚忠王。尚忠王の子。生。未。考。本。工。十。一。位。六。十。一。年。五。